

病院長就任のご挨拶

地域から信頼される病院を目指して

皆さま、こんにちは。このたび、令和4年4月1日より三重中央医療センターの病院長を拝命いたしました下村誠と申します。就任にあたり、これまでの取り組みや今後の展望についてご挨拶申し上げます。

三重中央医療センターでの歩み

私は昭和61年に三重大学医学部を卒業後、第一外科に入局し、1999年から約10年間三重中央医療センター外科で勤務しました。その後10年間松阪市民病院外科医長として勤務を経て、2019年に副院長として当院に戻りました。帰任当初、当院は経営的に厳しい状況にありましたが、経営分析チームを立ち上げ、診療実績を可視化する取り組みや、患者支援センターの設立などの改革を進めてまいりました。

地域から求められる医療への強化

当院が地域に果たすべき役割は多岐にわたりますが、特に「救急医療」と「地域連携」を最優先事項と考えています。

1. 地域連携の推進

地域の開業医の先生方と直接対話を重ねることで、現場の課題や要望を把握してきました。2020年には患者支援センターを設立し、入院支援やがん相談、地域連携を一体的に行う体制を整備しました。また、WEBによる訪問や研修会を導入し、より深い連携を模索しています。今年度からは医療機関へのアンケート調査も開始し、地域の医療機関のニーズの把握と改善に努めております。

2. 救急医療の充実

当院は津医療圏の二次救急医療機関として年間約4,000台の救急車を受け入れています。しかし、医師不足により救急対応が厳しい時期もありました。2022年度からは三重大学救急救命センターから常勤医を派遣いただき、救急医療の担い手である若手医師の育成にも力を入れております。現在、初期研修医は年々増え14名を数え、若い力が病院全体を活気づけています。さらに来年度には新救急外来棟の建設も予定しており、救急医療体制の一層の強化を図ってまいります。

新型コロナウイルスへの対応

2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響は津地区全体に及びました。当院は重点医療機関として、これまで660名以上の患者様を受け入れ、地域医療機関や大

学病院と連携しながら対応を進めてまいりました。一方で職員の院内感染による人手不足という課題も浮き彫りになりました。これからは「アフターコロナ」に向け、地域全体で感染症対策の体制を整備し、新たな感染症に備えることが急務と考えています。本院としても、引き続き地域の重点医療機関としての役割を果たしてまいります。

最後に

これまで本院をご支援いただいている津地区、久居一志地区の医師会の先生方をはじめ、三重県、津市、救急隊、地域住民の皆さまに心より感謝申し上げます。私たちは、地域から信頼され、愛される病院を目指し、これからも努力を続けてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(安の津医報より改変 2022年11月執筆)